

愛知県田原市山田池と滝頭下池の淡水貝類

松岡敬二*・中島 礼**

Freshwater molluscs in Yamada-ike and Takigashira-shimoike of Tahara City, Aichi Prefecture, Japan

Keiji Matsuoka * and Rei Nakashima **

はじめに

愛知県田原市は渥美半島の大部分を占めている。渥美半島の淡水環境は、主流路長の短い河川や灌漑用のため池からなり、そこに棲む淡水貝類は貧弱である(原田, 1986)。これまでの淡水貝類の記録としては、伊川津町からカワニナ、モノアラガイ、ヒメモノアラガイ、マルタニシ(原田, 1976)、芦ヶ池の淡水貝としてオニバスの葉裏からのカワコザラガイ、岸近くからヒメタニシ、オオタニシ、カワニナ(原田, 1986)、芦町(旧田原町芦村)のため池からオオタニシ、カワニナ、サカマキガイ、マシジミ、和地町(旧渥美町和地)の小川からカワニナ(木村, 1994)、池尻町(旧赤羽根町)の池尻川水系である野添川からのマツカサガイ(木村・浅香, 2004)がある。この他に、鳳来寺山自然科学博物館に保管されている天野景従採集標本に田原のマシジミがある(原田, 1983)。2007年11月28日の中日新聞には、田原市田原町の滝頭自然公園内の滝頭下池から外来魚駆除のために水抜きをした際にマツカサガイを発見した記事がある。

このたび、著者の一人中島は5万分の1地質図幅『豊橋及び田原』『伊良湖』に関する調査中に田原市大久保にある山田池から愛知県レッドデータリスト(愛知県環境部編, 2002)絶滅危惧IA類のマツカサガイなどの貝殻を採集した。さらに松岡は2008年12月

23日に同池の貝類を追加調査した。また、滝頭下池において、2008年3月17日にマツカサガイ、ヌマガイ(タガイ型を含む)、オオタニシの生息を確認したので合わせて報告する。

採集場所

田原市大久保の山田池(北緯 $34^{\circ}38'43''$;東経 $137^{\circ}14'25''$)は水田地帯にあるため池である。この池は汐川の支流である大久保川を堰き止めて大正6(1917)年に築造され、現在は道で中央部が2分されている。流入側は上池とも呼ばれ、水路で下池と連絡している。流域面積は130ha、貯水量 11.2 km^3 である。



第1図. 水を抜かれた田原市山田池(山田上池)。

* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi 441-3147, Japan.

** 独立行政法人産業技術総合研究所. National Institute of Advanced Industrial Science and Technology. Tsukuba Central 7, 1-1-1 Higashi, Tsukuba, Ibaraki 305-8567, Japan.

原稿受付 2008年12月27日. Manuscript received Dec. 27, 2008.

原稿受理 2009年1月12日. Manuscript accepted Jan. 12, 2009.

キーワード: 淡水貝類, 山田池, 滝頭下池, 田原市, 愛知県.

Key words : Freshwater molluscs, Yamada-ike, Takigashira-shimoike, Tahara City, Aichi Prefecture.



第2図. 密集しているヌマガイの死殻 (田原市山田上池).



第3図. 生息時の姿勢で泥中にあるマツカサガイ (田原市山田上池).



第4図. 田原市滝頭下池のマツカサガイ.

ため池の護岸改修のために水位が低下した岸近くの池底から淡水貝は採集された(第1図)。この地点は樹木が池面を覆い、一部にヨシが茂る。滝頭下池(北緯 $34^{\circ} 39' 56''$; 東経 $137^{\circ} 14' 47''$)は滝頭山の北東の谷を堰きとめたため池で、その排水路は汐川の支流

に合流している。築造は昭和8(1933)年、流域面積は51ha、貯水量 22 km^3 である。採集場所は池の南西側で滝頭上池からの溢水が流れ込んでいる。

採集標本

ヌマガイ *Anodonta lauta* が生息時の姿勢で死殻が密集していた(第2図)。山田池のヌマガイ(タガイ型を含む)は、採集した標本の中で最大のものは、殻長約 160 mm である。次に多いのはマツカサガイ *Pronodularia japonensis* (採集標本の最大殻長約 87 mm)であり、僅かにマシジミ *Corbicula leana*, オオタニシ *Cipangopaludina japonica*, スクミリングガイ *Pomacea canaliculata* があった。マツカサガイは殻長 60 mm を超える大形個体が大半を占め、一部は泥にもぐったままの状態である(第3図)。採集標本は死殻及び死後間もないものである。滝頭下池のマツカサガイは最大殻長が約 77 mm で、砂礫底部で生貝を発見した(第4図)。同じくヌマガイも泥混じりの砂礫に潜った個体を発見した。採集標本は、豊橋市自然史博物館に保管(TMNH-MO15919 ~ 15953)されている。

謝 辞

田原市役所の増山禎之氏には、ため池に関する資料を提供して頂いた。記してお礼申し上げる。

引用文献

- 愛知県環境部編, 2002. レッドデータブックあいち, 動物編. 愛知県, 596p.
- 原田一夫, 1976. 動物一般. 渥美地区農地開発事業予定地自然環境保全調査報告, 愛知県豊橋農地開発事務所, 38-44.
- 原田一夫, 1983. 天野コレクション概報(その2) - 淡水貝の部一. 鳳来寺山自然科学博物館館報, (12): 31-34.
- 原田一夫, 1986. 田原町北部の貝類相. 伊良湖, (17): 20-20.
- 木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報第33報(全国高等学校水産教育研究会): 14-34.
- 木村昭一・浅香智也, 2004. 豊川市白川の淡水二枚貝類相. かきつばた, (29): 21-24.